

**平成26年度 北海道立生涯学習推進センター研修事業
遠隔学習プログラム研修講座事業報告**

I 事業の概要

研修テーマ いつでも・どこでも学べる環境づくりの構築を目指して

- 1 趣 旨 遠隔学習による学習機会の提供の在り方及びその知識・技術等に関する研修を行うことによって、遠隔学習の推進の中核となる指導者の育成と産学官の情報のネットワーク化を図る。
- 2 主 催 北海道立生涯学習推進センター
- 3 期 日 平成26年10月24日（金）
- 5 会 場 道民活動センタービル 「かでの2・7」820研修室
- 6 参加対象 市町村・市町村教育委員会職員、学校職員、生涯学習関連施設（児童館、勤労青少年センター等）職員、青少年教育施設職員、民間団体（NPO、ボランティア等）関係者、その他（情報教育に関心のある方、地域の学習リーダー等）30名
- 7 参加状況 35名（社会教育関係職員 7名、社会教育関係職員以外 28名）
- 8 日 程

10:00		10:15	10:30		12:00		13:00		16:15		16:30
受付	開会	趣旨説明	基調講義 (道民カレッジ連携講座)		昼食休憩	演習・グループワーク		ふりかえり		閉会	

※基調講義を、道民カレッジ連携講座（能力開発コース1単位）として実施。

9 活動の概要

(1) 趣旨説明

【説明】北海道立生涯学習推進センター職員

【内容】本セミナーの趣旨及びテーマ設定について説明

<テーマについて>

第6期中央教育審議会生涯学習分科会における議論の整理(H25.1)では、双方向性の特長を有するICTを効果的に活用した学習（eラーニング）を推進することが有効であると整理していることや、内閣府の「平成24年度生涯学習に関する世論調査」での「情報端末やインターネットを使った生涯学習の意向」の結果から、「いつでも・どこでも学べる環境づくりの構築が必要であることを説明した。

(2) 講義「生涯学習における遠隔学習の可能性～e-Learningで変わる学びのプロセス～」

【講師】北海道大学大学院情報科学研究科教授 山本 強 氏

【内容】情報環境がe-Learningを変えてきたこれまでの歴史や背景、実際にe-Learningコンテンツを開発する際のポイントやコンテンツの効果や評価のほか、反転学習等のe-Learningによる新しい学習スタイルについて学ぶ機会となった。

(3) 演習・グループワーク「タブレット端末を活用した遠隔学習の手法」

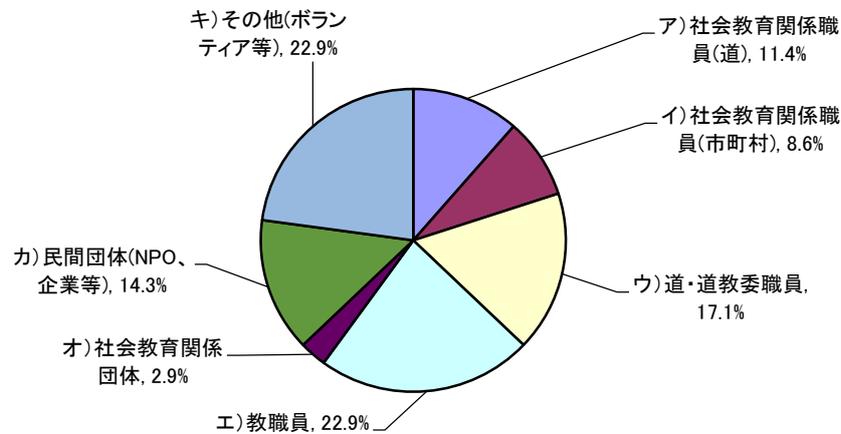
【講師】株式会社ラプト代表取締役・札幌大学非常勤講師 小賀 朋加 氏

【内容】タブレット端末の基本的な操作を学び、動画撮影、動画のインターネットでの配信方法などを体験したほか、事業（授業）で活用できるICT機器やソフト（アプリ）について知ることができた。

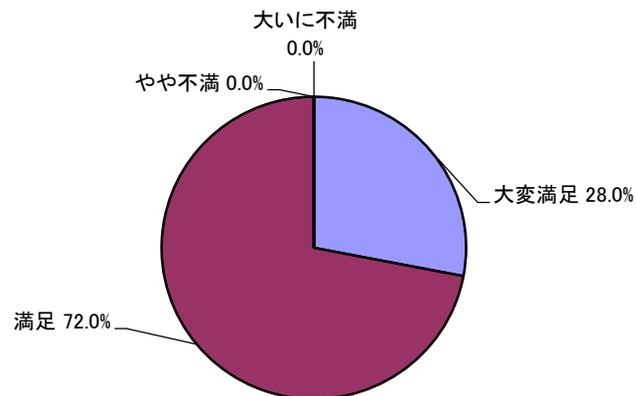
Ⅱ 事業の満足度

1 アンケート対象者数 35名 回答者数 28名 (回収率 80.0%)

参加者(所属)状況



2 講座全体をとおして

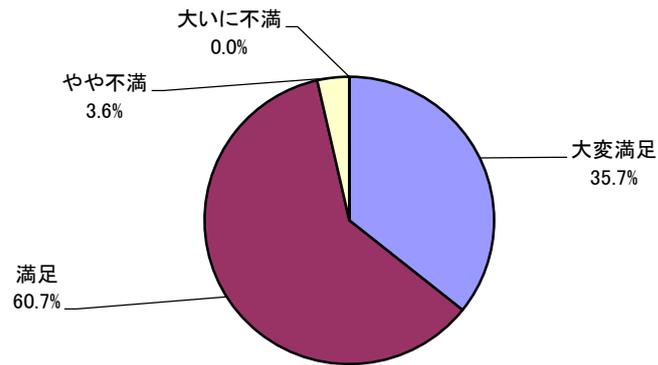


【参加者の声】

- 生涯学習の研修プログラムとしては、大変良かった。
- 基調講義で e-Learning の実際を伺うことができた。
- 山本先生の講義はまとまっており、わかりやすかった。演習は後半、間のびしてしまった。
- 楽しく勉強できた。自身の事業に生かしたい。
- ipad にふれることができ、授業に生かせるものがあった。
- タブレット端末を学校教育の授業で使う上で、気をつけるポイントを得ることができた。
ICT は箱であり、中に入れるもしくは使う内容、目的をはっきりさせて使う必要があることがわかった。
- 内容がわかりやすく、面白かった。
- 体験を通じての講義で納得のいく内容であった。

3 研修プログラムの内容について

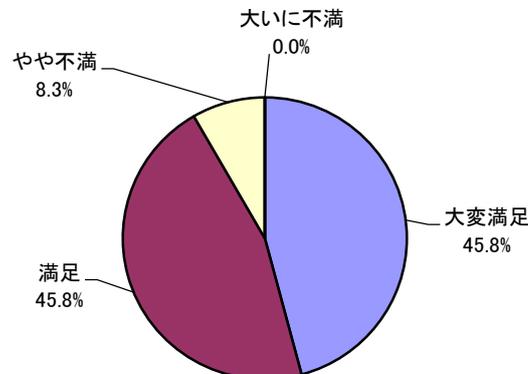
(1) 基調講義「生涯学習における遠隔学習の可能性～e-Learning で変わる学びのプロセス～」



【参加者の声】

- e-Learning のコンテンツ作成に関する実際について知ることができた。
- 何を実現したいかの視点を明確にした上で、何ができるかがポイントだと感じた。
- e-Learning の歴史が意外と古いということがわかった。
- 色々な視点からの話だったので大変勉強になった。
- e-Learning をどう用いるべきか。既存の教育の在り方、順序にとらわれずアイデア次第でもっと面白くできそうだと感じた。
- ICT 活用がどこでも掲げられているが、ハードをそろえても中身が伴わなければならない。または、内容や使うことのアプローチがなければ利用価値がないと思った。
- 問題点や導入される際の留意点等が言い尽くされていた。欲を言えば、反転学習以外の具体的な活用法をお聞きしたかった。
- 遠隔学習とは、講義や実技の動画ばかりをイメージしていたが、PDF、PTT のスライドなどもあり得るのだと知った。
- 説明が明確で理解しやすかった。
- 大学の e-Learning について学べた。
- 遠隔学習での大学教育（若者）と生涯学習者（高齢者）のそれぞれの配慮事項を知りたかった。

(2) 演習・グループワーク「タブレット端末を活用した遠隔学習の手法」

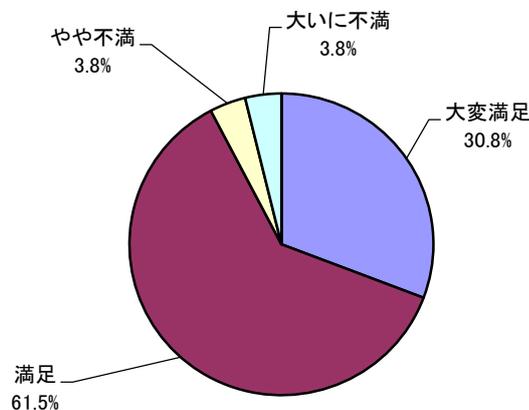


【参加者の声】

- 動画編集の基礎的な技術を身につけることができた。
- 楽しくて、大変役に立った。
- 時間がたりなかった。
- 楽しく動画を作成することができた。

- 楽しく操作方法を覚えられただけでなく、有効性を見出すことができた。
- 改めて作品づくりのアイデアを出すことの難しさを感じた。
- タブレット端末の基本的な使い方がよくわかった。有料でアプリをダウンロードしなくても十分に活用できることがわかった。
- 楽しく演習に取り組むことができた。YouTube の活用は、学習コンテンツの発信等のために以前から学びたいと思っていたので、充実した内容であった。
- 雰囲気はつかめたような気がした。
- タブレット端末の活用についてヒントをもらうことができた。
- 動画編集の作成手順が難しかった。
- 時間が間のびした感があったが、このようなトラブルはよくあることと思う。もう一步深い活用法を知りたかった。
- 持ち帰られる資料がほしかった。
- もう少し ipad の特性（e-Learning を前提にした）に踏み込めればと思った。

4 研修講座の運営について



【参加者の声】

- スムーズな進行でよかった。
- 機器を使う研修は、大変だと思った。
- 基調講義だけでなく、全てのプログラムを連携講座にしてほしかった。
- 高齢者には、難しい内容だった。

5 その他、本講座をとおして気づいた点

【参加者の声】

- わかりやすい講座で大変良かったです。学校での活用事例等を紹介していただければ、より良かったです。
- ぜひ道東方面でもこのような企画を実施してほしいと思った。
- 研修の成果を活用し、遠隔学習の研究を進めていきたいと思った。
- 反転学習と言う新しい動きを知ることができ参考になった。
- 有意義な講座だった。
- 他機関との交流ができて良かった。
- 高齢の方は機器の操作に苦労しているようだったが、運営者が来てくれたので安心して参加しているようだった。
- インフラ（回線の太さ）は、十分な余裕が必要と思った。
- 初級編だったが、初めてタブレット端末をさわる人には少し難しかった。

6 今後の要望等

【参加者の声】

- ・ タブレット端末は、教育界でも今、注目されている。今後も同様な講座を実施してほしい。
- ・ 今回の内容は、基礎的な内容だったが、より実践的な講座も期待している。
- ・ 双方向テレビ方式の学習理論と技術講座を希望する。
- ・ 今後、学校現場では、コミュニティスクールを進めていくことが課題となっている。地域と学校の連携の在り方、進め方についてのノウハウを研修にしてほしい。
- ・ ラジコンカー（学校開放講座で実施）を使った脳トレ研修をしてほしい。
- ・ 色々と幅のある講義があると良い。